

皆様おはようございます。

ついに3月に入りました。先週は雪のちらつく日もありましたが、もう春の雪、すぐに解けてなくなる雪となりました。

1か月後に受難週を控え、私たちはヨハネの黙示録を読み終えてイエス様の地上での公生涯の最後の部分から学ばせていただきたく願っております。

今日はルカ21章から、やもめの捧げられたもの、世の終わりの兆候が語られた箇所を味わってまいりましょう。

最初の4節の中に、ある貧しいやもめとイエス様との出来事が記してあります。二人の間に会話はありませんが、この女性の捧げる姿勢を主は弟子たちに語っておられます。

- 1 イエスは目をあげて、金持たちがさいせん箱に献金を投げ入れるのを見られ、
- 2 また、ある貧しいやもめが、レプタ二つを入れるのを見て
- 3 言われた、「よく聞きなさい。あの貧しいやもめはだれよりもたくさん入れたのだ。
- 4 これらの人たちはみな、ありあまる中から献金を投げ入れたが、あの婦人は、その乏しい中から、持っている生活費全部を入れたからである」。

イエス様は多くを捧げているお金持ちの人たちを殊更にけなして、貧しいやもめの女性にスポットライトを当てるといふ美談を演出しようとしたのでしょうか。

まず、レプタ銅貨の価値について考えましょう。

1レプタは128分の一デナリです。1デナリは労働者の一日分の労賃でした。当時の労働時間は12時間であると書いている方がありました。今日の日本の最低賃金の平均に12を掛けましたら1万円くらいになるのでしょうか。しかし当時の貧しき現状に即して厳しく見積もればその半分にもなるかと思えます。

そうしました時には1レプタとは、今日の価値で40円ほどになります。2レプタでしたら80円。100円ほどの献金ということでしょうか。或いはもっともっと換算すれば少ないかもしれません。

問題は、その80円がこの女性の生活費のすべてであったということです。

やもめの女性。今日のような福祉制度のない当時の状況の中では、ルツ記にもありましたように、その境遇は砂をかみしめるようなものでした。

「未亡人」という言葉も残酷です。それは「いまだ亡くならない人」という意味です。主人を失ったらあとは自分も死んでゆくばかり、夫もいない、子もいない、それは生きる道が断たれたということを意味しました。

インドでは、夫亡き後未亡人が夫の後を追って焼身自殺するというサティーという風習があり、イギリス統治時代に法律で禁止されましたが、現代でもこの風習は続いているそうです。

一日分で80円か、数日分での生活費かはわかりません。

マタイ10章にはこうあります。

10:17 人々に注意しなさい。彼らはあなたがたを衆議所に引き渡し、会堂でむち打つであろう。

10:18 またあなたがたは、わたしのために長官たちや王たちの前に引き出されるであろう。それは、彼らと異邦人とに対してあかしをするためである。

10:19 彼らあなたがたを引き渡したとき、何をどう言おうかと心配しないがよい。言うべきことは、その時に授けられるからである。

10:20 語る者は、あなたがたではなく、あなたがたの中にあって語る父の霊である。

10:21 兄弟は兄弟を、父は子を殺すために渡し、また子は親に逆らって立ち、彼らを殺させるであろう。

10:22 またあなたがたは、わたしの名のゆえにすべての人に憎まれるであろう。しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。

10:23 一つの町で迫害されたなら、他の町へ逃げなさい。よく言うておく。あなたがたがイスラエルの町々を回り終らないうちに、人の子は来るであろう。

10:24 弟子はその師以上のものではなく、僕はその主人以上の者ではない。

10:25 弟子がその師のようであり、僕がその主人のようであれば、それで十分である。もし家の主人がベルゼブルと言われるならば、その家の者どもはなおさら、どんなにか悪く言われることであろう。

10:26 だから彼らを恐れるな。おおわれたもので、現れてこないものはなく、隠れているもので、知られてこないものはない。

10:27 わたしが暗やみであなたがたに話すことを、明るみで言え。耳にささやかれたことを、屋根の上で言いひろめよ。

10:28 また、からだを殺しても、魂を殺すことのできない者どもを恐れるな。むしろ、からだも魂も地獄で滅ぼす力のあるかたを恐れなさい。

10:29 二羽のすずめは一アサリオンで売られているのではないか。しかもあなたがたの父の許しがなければ、その一羽も地に落ちることはない。

10:30 またあなたがたの頭の毛までも、みな数えられている。

10:31 それだから、恐れることはない。あなたがたは多くのすずめよりも、まさった者である。

10:32 だから人の前でわたしを受けいれる者を、わたしもまた、天にいますわたしの父の前で受けいれるであろう。

二羽の雀は1アサリオン。

1アサリオンとは十六分の一デナリです。すなわち300円くらいでしょうか。

二羽の雀。二羽が1セットで売られていたということですね。小さな雀は一羽では売られる商品価値がなく、儲けにもならないのでセットで二羽から売られていたということでしょうか。しかし神様はそんな無きに等しいような一羽の雀を知っていて下さり、地に落ちないように、すなわち死なないように守っていて下さるといふ美しいお話ですね。ましてやあなた方一人一人のためにはどんなにか、というお話です。イエス様はこのお話を、これから弟子たちを伝道のために派遣するという時に話されました。

2レプタとは、四分の一アサリオンです。ですから、この女性はその一羽の雀の半分に相当するお金しか持ち合わせてはいませんでした。

このお金でどうやって生活をしていくのか。この女性には心配や不安があったのではないのでしょうか。頭を抱える気持ちだったのではないのでしょうか。そして、ここに貧しい一人の人がいるのに、殊に、神様をあがめる神殿の中に、神の礼拝の家族である兄弟姉妹たちと共にいるのに、お金持ち達も多くいるのに、どうしてこの女性が見過ごされていたのでしょうか。

ヤコブ 1:27 父なる神のみまえに清く汚れのない信心とは、困っている孤児や、やもめを見舞い、自らは世の汚れに染まずに、身を清く保つことにほかならない。

この女性は、そのなけなしの、生きるためのお金を全て宮の捧げものの入れ物に入れました。そうしたら、どうなるのでしょうか。生きて行けるのでしょうか。もう投げやりの、捨て鉢になってしまったのでしょうか。もう人生をあきらめてしまったのでしょうか。

いいえ、この女性は主に自分の人生を捧げたのです。

列王記 上 17:1 ギレアデのテシベに住むテシベびとエリヤはアハブに言った、「わたしの仕えているイスラエルの神、主は生きておられます。わたしの言葉のないうちは、数年雨も露もないでしょう」。

17:2 主の言葉がエリヤに臨んだ、

17:3 「ここを去って東におもむき、ヨルダンの東にあるケリテ川のほとりに身を隠しなさい。

17:4 そしてその川の水を飲みなさい。わたしはからすに命じて、そこであなたを養わせよう」。

17:5 エリヤは行って、主の言葉のとおりにした。すなわち行って、ヨルダンの東にあるケリテ川のほとりに住んだ。

17:6 すると、からすが朝ごとに彼の所にパンと肉を運び、また夕ごとにパンと肉を運んできた。そして彼はその川の水を飲んだ。

17:7 しかし国に雨がなかったので、しばらくしてその川はかれた。

17:8 その時、主の言葉が彼に臨んで言った、

17:9 「立ってシドンに属するザレパテへ行って、そこに住みなさい。わたしはそのところのやもめ女に命じてあなたを養わせよう」。

17:10 そこで彼は立ってザレパテへ行ったが、町の門に着いたとき、ひとりのやもめ女が、その所でたきぎを拾っていた。彼はその女に声をかけて言った、「器に水を少し持ってきて、わたしに飲ませてください」。

17:11 彼女が行って、それを持ってこようとした時、彼は彼女を呼んで言った、「手に一口のパンを持ってきてください」。

17:12 彼女は言った、「あなたの神、主は生きておられます。わたしにはパンはありません。ただ、かめに一握りの粉と、びんに少しの油があるだけです。今わたしはたきぎ二、三本を拾い、うちへ帰って、わたしと子供のためにそれを調理し、それを食べて死のうとしているのです」。

17:13 エリヤは彼女に言った、「恐れるにはおよばない。行って、あなたが言ったとおりにしなさい。しかしまず、それでわたしのために小さいパンを、一つ作って持ってきてなさい。その後、あなたと、あなたの子供のために作りなさい。

17:14 『主が雨を地のおもてに降らす日まで、かめの粉は尽きず、びんの油は絶えない』とイスラエルの神、主が言われるからです」。

17:15 彼女は行って、エリヤが言ったとおりにした。彼女と彼および彼女の家族は久しく食べた。

17:16 主がエリヤによって言われた言葉のように、かめの粉は尽きず、びんの油は絶えなかった。

17:17 これらの事の後、その家の主婦であるこの女の男の子が病気になった。その病気はたいそう重く、息が絶えたので、

17:18 彼女はエリヤに言った、「神の人よ、あなたはわたしに、何の恨みがあるのですか。あなたはわたしの罪を思い出させるため、またわたしの子を死なせるためにおいでになったのですか」。

17:19 エリヤは彼女に言った、「子をわたしによこしなさい」。そして彼女のふところから子供を取り、自分のいる屋上のへやへかかえて上り、自分の寝台に寝かせ、

17:20 主に呼ばわって言った、「わが神、主よ、あなたはわたしが宿っている家のやもめにさえ災をくだして、子供を殺されるのですか」。

17:21 そして三度その子供の上に身を伸ばし、主に呼ばわって言った、「わが神、主よ、こ

の子供の魂をもとに帰らせてください」。

17:22 主はエリヤの声を聞き入れられたので、その子供の魂はもとに帰って、彼は生きかえった。

17:23 エリヤはその子供を取って屋上のへやから家の中につれて降り、その母にわたして言った、「ごらんなさい。あなたの子は生きかえりました」。

17:24 女はエリヤに言った、「今わたしはあなたが神の人であることと、あなたの口にある主の言葉が真実であることを知りました」。

列王記下 4:32 エリシャが家にはいって見ると、子供は死んで、寝台の上に横たわっていたので、

4:33 彼ははいて戸を閉じ、彼らふたりだけ内にいて主に祈った。

4:34 そしてエリシャが上がって子供の上に伏し、自分の口を子供の口の上に、自分の目を子供の目の上に、自分の両手を子供の両手の上にあて、その身を子供の上に伸ばしたとき、子供のからだは暖かになった。

4:35 こうしてエリシャは再び起きあがって、家の中をあちらこちらと歩み、また上がって、その身を子供の上に伸ばすと、子供は七たびくしゃみをして目を開いた。

ヘブル 7:22 このようにして、イエスは更にすぐれた契約の保証となられたのである。

7:23 かつ、死ということがあるために、務を続けることができないので、多くの人々が祭司に立てられるのである。

7:24 しかし彼は、永遠にいますかたであるので、変らない祭司の務を持ちつづけておられるのである。

7:25 そこでまた、彼は、いつも生きていて彼らのためにとりなしておられるので、彼によって神に来る人々を、いつも救うことができるのである。

ヘブル 11:6 信仰がなくては、神に喜ばれることはできない。なぜなら、神に来る者は、神のいますことと、ご自分を求める者に報いて下さることとを、必ず信じるはずだからである。

ヘブル 4:15 この大祭司は、わたしたちの弱さを思いやることのできないようなかたではない。罪は犯されなかったが、すべてのことについて、わたしたちと同じように試練に会われたのである。

4:16 だから、わたしたちは、あわれみを受け、また、恵みにあずかって時機を得た助けを受けるために、はばかりことなく恵みの御座に近づこうではないか。

この女性は、神様に望みを置いていました。そして自らを捧げることによって神様を呼び求めました。そして彼女はイエス様に見いだされたのです。

21:5 ある人々が、見事な石と奉納物とで宮が飾られていることを話していたので、イエスは言われた、

21:6 「あなたがたはこれらのものをながめているが、その石一つでもくずされずに、他の石の上に残ることもなくなる日が、来るであろう」。

人々は、見事な神殿の建物に魅了され、この建物のある所なら神様のご加護があると信じていました。そしてその威光のため、その栄光のために多くを捧げていました。

神殿には 13 個のラッパ型の容器が置かれていました。大勢の金持ちがいました。この人たちは、どれ程たくさん捧げたか、他の人たちの目に触れるように捧げているようでした。賞賛を求めているように見えました。

しかしその目に見えるものの威光は消え去る。目に見える荘厳な建物自体には何の力もない。しかし目には見えないが確かにおられる神様ご自身に頼りなさい。このような主のお教えが心に響きます。

ヨハネ 4:21 イエスは女に言われた、「女よ、わたしの言うことを信じなさい。あなたがたが、この山でも、またエルサレムでもない所で、父を礼拝する時が来る。

4:22 あなたがたは自分の知らないものを拝んでいるが、わたしたちは知っているかたを礼拝している。救はユダヤ人から来るからである。

4:23 しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊とまこととをもって父を礼拝する時が来る。そうだ、今きている。父は、このような礼拝をする者たちを求めておられるからである。

4:24 神は霊であるから、礼拝をする者も、霊とまこととをもって礼拝すべきである」。

7 そこで彼らはたずねた、「先生、では、いつそんなことが起るのでしょうか。またそんなことが起るような場合には、どんな前兆がありますか」。

8 イエスが言われた、「あなたがたは、惑わされないように気をつけなさい。多くの者がわたしの名を名のって現れ、自分がそれだとか、時が近づいたとか、言うであろう。彼らについて行くな。

9 戦争と騒乱とのうわさを聞くときにも、おじ恐れるな。こうしたことはまず起らねばならないが、終りはすぐにはこない」。

10 それから彼らに言われた、「民は民に、国は国に敵対して立ち上がるであろう。

11 また大地震があり、あちこちに疫病やききんが起り、いろいろ恐ろしいことや天からの

物すごい前兆があるであろう。

12 しかし、これらのあらゆる出来事のある前に、人々はあなたがたに手をかけて迫害をし、会堂や獄に引き渡し、わたしの名のゆえに王や総督の前にひっぱって行くであろう。

13 それは、あなたがたがあかしをする機会となるであろう。

14 だから、どう答弁しようかと、前もって考えておかないことに心を決めなさい。

15 あなたの反対者のだれもが抗弁も否定もできないような言葉と知恵とを、わたしが授けるから。

力ある人は戦いを仕掛け、自分の領域を広げようとします。持てる人はさらにそれを増やそうとします。戦争と騒乱、大地震、疫病やききん、色々な恐ろしいことが起こります。そのような中、迫害が起こります。

「人々はあなたがたに手をかけて迫害をし、会堂や獄に引き渡し、わたしの名のゆえに王や総督の前にひっぱって行くであろう」

権威のある、権力のある、力のある人たちから煙たがられ、逮捕され、憎まれ、嫌われ、軽蔑され、無視され、軽視されます。

21:16 しかし、あなたがたは両親、兄弟、親族、友人にさえ裏切られるであろう。また、あなたがたの中で殺されるものもあろう。

21:17 また、わたしの名のゆえにすべての人に憎まれるであろう。

21:18 しかし、あなたがたの髪の毛一すじでも失われることはない。

21:19 あなたがたは耐え忍ぶことによって、自分の魂をかち取るであろう。

一羽の雀さえ守って下さる主の御手があります。

いよいよ正しいものを抹殺しようとする暗闇の勢力がはびこる恐ろしい時が来ます。しかし、それこそが証しの時となります。怖じ、恐れるな。

2:1 わたしの兄弟たちよ。わたしたちの栄光の主イエス・キリストへの信仰を守るのに、分け隔てをしてはならない。

2:2 たとえば、あなたがたの会堂に、金の指輪をはめ、りっぱな着物を着た人がはいつて来ると同時に、みすぼらしい着物を着た貧しい人がはいつてきたとする。

2:3 その際、りっぱな着物を着た人に対しては、うやうやしく「どうぞ、こちらの良い席にお掛け下さい」と言い、貧しい人には、「あなたは、そこに立っていなさい。それとも、わたしの足もとにすわっているがよい」と言ったとしたら、

2:4 あなたがたは、自分たちの間で差別立てをし、よからぬ考えで人をさばく者になったわけではないか。

2:5 愛する兄弟たちよ。よく聞きなさい。神は、この世の貧しい人たちを選んで信仰に富ませ、神を愛する者たちに約束された御国の相続者とされたのではないか。

2:6 しかるに、あなたがたは貧しい人はずかしめたのである。あなたがたをしいたげ、裁判所に引きずり込むのは、富んでいる者たちではないか。

2:7 あなたがたに対して唱えられた尊い御名を汚すのは、実に彼らではないか。

2:8 しかし、もしあなたがたが、「自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」という聖書の言葉に従って、このきわめて尊い律法を守るならば、それは良いことである。

2:9 しかし、もし分け隔てをするならば、あなたがたは罪を犯すことになり、律法によって違反者として宣告される。

1:22 そして、御言を行う人になりなさい。おのれを欺いて、ただ聞くだけの者となつてはいけない。

2:14 わたしの兄弟たちよ。ある人が自分には信仰があると称していても、もし行いがなかったら、なんの役に立つか。その信仰は彼を救うことができるか。

2:15 ある兄弟または姉妹が裸でいて、その日の食物にもこと欠いている場合、

2:16 あなたがたのうち、だれかが、「安らかに行きなさい。暖まって、食べ飽きなさい」と言うだけで、そのからだに必要なものを何ひとつ与えなかったとしたら、なんの役に立つか。

2:17 信仰も、それと同様に、行いを伴わなければ、それだけでは死んだものである。

マタイ 21:12 それから、イエスは宮にはいられた。そして、宮の庭で売り買いしていた人々をみな追い出し、また両替人の台や、はとを売る者の腰掛をくつがえされた。

21:13 そして彼らに言われた、『わたしの家は、祈の家となえらるべきである』と書いてある。それなのに、あなたがたはそれを強盗の巣にしている』。

21:14 そのとき宮の庭で、盲人や足なえがみもとにきたので、彼らをおいやしになった。

21:15 しかし、祭司長、律法学者たちは、イエスがなされた不思議なわざを見、また宮の庭で「ダビデの子に、ホサナ」と叫んでいる子供たちを見て立腹し、

21:16 イエスに言った、「あの子たちが何を言っているのか、お聞きですか」。イエスは彼らに言われた、「そうだ、聞いている。あなたがたは『幼な子、乳のみ子たちの口にさんびを備えられた』とあるのを讀んだことがないのか」。

ヨハネ 2:13 さて、ユダヤ人の過越の祭が近づいたので、イエスはエルサレムに上られた。

2:14 そして牛、羊、はとを売る者や両替する者などが宮の庭にすわり込んでいるのをごらんになって、

2:15 なわでむちを造り、羊も牛もみな宮から追いだし、両替人の金を散らし、その台をひっくりかえし、



2:16 はとを売る人々には「これらのものを持って、ここから出て行け。わたしの父の家を商売の家とするな」と言われた。

2:17 弟子たちは、「あなたの家を思う熱心が、わたしを食いつくすであろう」と書いてあることを思い出した。

2:18 そこで、ユダヤ人はイエスに言った、「こんなことをするからには、どんなしるしをわたしたちに見せてくれますか」。

2:19 イエスは彼らに答えて言われた、「この神殿をこわしたら、わたしは三日のうちに、それを起すであろう」。

2:20 そこで、ユダヤ人たちは言った、「この神殿を建てるのには、四十六年もかかっています。それなのに、あなたは三日のうちに、それを建てるのですか」。

2:21 イエスは自分のからだである神殿のことを言われたのである。

2:22 それで、イエスが死人の中からよみがえったとき、弟子たちはイエスがこう言われたことを思い出して、聖書とイエスのこの言葉とを信じた。

そしてこの御言葉があります。

マタイ 18:21 そのとき、ペテロがイエスのもとにきて言った、「主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯した場合、幾たびゆるさねばなりませんか。七たびまでですか」。

18:22 イエスは彼に言われた、「わたしは七たびまでとは言わない。七たびを七十倍するまでにしなさい。

18:23 それだから、天国は王が僕たちと決算をするようなものだ。

18:24 決算が始まると、一万タラントの負債のある者が、王のところに連れられてきた。

18:25 しかし、返せなかったので、主人は、その人自身とその妻子と持ち物全部とを売って返すように命じた。

18:26 そこで、この僕はひれ伏して哀願した、『どうぞお待ちください。全部お返しいたしますから』。

18:27 僕の主人はあわれに思って、彼をゆるし、その負債を免じてやった。

18:28 その僕が出て行くと、百デナリを貸しているひとりの仲間に出会い、彼をつかまえ、首をしめて『借金を返せ』と言った。

18:29 そこでこの仲間はひれ伏し、『どうか待ってくれ。返すから』と言って頼んだ。

18:30 しかし承知せずに、その人をひっぱって行って、借金を返すまで獄に入れた。

18:31 その人の仲間たちは、この様子を見て、非常に心をいため、行ってそのことをのこらず主人に話した。

18:32 そこでこの主人は彼を呼びつけて言った、『悪い僕、わたしに願ったからこそ、あの負債を全部ゆるしてやったのだ。

18:33 わたしがあわれんでやったように、あの仲間をあわれんでやるべきではなかったか』。

18:34 そして主人は立腹して、負債全部を返してしまうまで、彼を獄吏に引きわたした。

18:35 あなたがためいめいも、もし心から兄弟をゆるさないならば、わたしの天の父もまたあなたがたに対して、そのようになさるであろう」。

一万タラント。

一タラントは実に6000デナリです。それは実に20年分の労賃。その一万倍。20万年分の労賃。それは3000億です。5000億、6000億円です。途方も知れない巨大な負債を、赦していただいたのです。キリスト・イエスの代価によって。私たちは無償で赦されたのです。

これほどの穴埋めをして頂いては、私たちの捧げものについて、どのように埋め合わせが出来るというものなのでしょう。

私たちは唯々感謝をもって、このお方の愛の誠をおささげし、大きな大きな感謝と共に、赦され生かされて生きていくのです。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。様々な、道を迷わ

せる惑わしがあり、不穏な事件、戦争、大地震、病、飢饉、色々と恐ろ

しいことが起こりますが、目に見えるものに頼らず、主イエス様のゆえ

に、それを土台として学び、考え、行動する時に、困難の中をも守り導

かれる道があることを教えてください、ありがとうございます。信じる

がゆえに強力な迫害があり、憎まれ、投獄され、殺されるようなときも、

あかしの機会があり、耐え忍んだのちに命の救いが用意されているこ

とに感謝いたします。子供からお年寄りまで、あらゆる年齢の方々が、

この時こそ教会にて、イエス・キリストに出会うことができますように

お願いいたします。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主

イエス様の御名によって祈ります。アーメン